

## 資料 2

西東京市公民館運営審議会  
令和4年度第3回定例会

## 令和4年度 公民館主催事業計画書

令和3年度～5年度公民館事業計画における基本方針

- 1 開かれた公民館
- 2 問いかける公民館
- 3 地域とともに
- 4 地域の中につながりを

公運審提出日 令和4年7月20日

	実施館	事業名	基本方針	期間・回数	事業概要	主な講師等
1	柳沢	ムービールーム柳沢	1	9月14日から 令和5年3月8日 水曜日 14時から 全6回	柳沢公民館の視聴覚設備を活かして、映画会を実施する。	
2	柳沢	地域づくり未来大学 ～学びで地域を豊かにするための第一歩～	2 4	9月17日から 令和5年3月11日 土曜日 10時から12時15分 全12回	【前半】社会的課題について学び地域課題を見出すための講義（インプット）と、その課題解決のためのケーススタディ（アウトプット）をテーマ毎に実施。  【後半】取り組む地域課題を基にグループを作り、活動企画書の作成と発表を行う。	岩松真紀（明治大学非常勤講師） 中村晋也（ヤギサワベース代表） 田中悠美子（立教大学助教） 辻岡秀夫（NPO法人ゆどうふ理事長）  ほか

3	柳沢	<p>【共催事業】 西東京市民映画祭2022 第19回自主制作映画コンペ ティション最終予選会 ※西東京市民映画祭2022実行 委員会との共催</p>	3	9月23日 祝日・金曜日 10時から18時	一次予選を通過した応募作品の中から、11月に開催される本選で上映する作品を選ぶ最終予選会を公開で実施する。	井坂能行（映画・映像監督） 野村正昭（映画評論家） ほか
4	芝久保	<p>多世代交流講座 五感でアート～農&amp;美術でコ ミュニケーション～</p>	3 4	10月15日 10月23日 11月6日 日曜日 10時から12時 全3回	子どもや就労者、高齢者と幅広い世代が共に同じことを学び体験することで同じ地域に住む人との出会いや交流を提供する。また、多世代を対象とするため、土、日に開催し、学びの場を館外に広げ、地域の農家と連携して事業を実施する。	野菜の濱野（農業経営者） 大野恭裕（臨床美術士） 谷 いつ美（臨床美術士）
5	谷戸	<p>女性のための講座（保育付 き） これだけは知っておきたい！ 身近な世界を知る講座</p>	1 2	9月22日から 12月15日 木曜日 10時から11時45分 全12回（保育説明会含 む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マスコミ等で取り上げられている身近な課題を取り上げ、日本との関わりのみならず自らの問題として考える。</li> <li>・平和が脅かされている現代社会において、ジェンダー平等、平和について考える機会とする。</li> <li>・同じ属性（女性）の中でも多様であることを知り、互いを認め合い課題解決に向けて共に考え行動する関係を築き、学びによるつながりを作る。</li> </ul>	<p>新井浩子（早稲田大学文学学 術院講師・大人学びラボ代 表） 紺野 誠二（難民を助ける 会：プロジェクト・コーデ イナー） 甲野綾子（ミャンマー子ども 支援・文化交流NGOソシアを 設立、国際協力機関等で勤 務） 後藤絵美（東京外国語大学ア ジア・アフリカ言語文化研究 所助教） ナンミャケーカイン（京都精 華大学国際文化学部准教授）</p>

6	谷戸	インクルーシブな社会をめざす講座・親子講座 みんなで楽しくアート！	3 4	10月1日 土曜日 14時から16時	親子で障がいのある人と一緒にスズランテープのカラフルな森を作るという造形遊びを体験し、ともに楽しさを共有することで、障がいについて親子で話すきっかけや多様性を受け入れる素地が生まれることを期待して実施する。	山田修平（東京学芸大こども未来研究所副理事長・立正大学社会福祉学部子ども教育福祉学科准教授） ＜協力＞社会福祉法人ウーノの会
7	ひばりが丘	子育て中の女性のための講座（保育付） わが子を守る災害への備え～はじめの一步～	1 2	10月14日から 令和5年2月10日 金曜日 10時から11時45分 全14回（保育説明会含む）	家族を守る具体的な備えを学ぶことはもちろんのこと、防災という万人共通のテーマを通して、子育て家庭特有の課題に気づき、悩みを共有していく。そして、防災対策も日頃の子育てと同様に家族全員で取り組むことの必要性を共有し、具体的な実践に繋げる。	小野修平（ジョージ防災研究所代表、防災アドバイザー） 藤井有貴子（熊本市男女平等センター所長）※講師交渉中 小林由枝（佐賀県武雄市よりみちステーション代表）※講師交渉中 村田美智子（整理収納アドバイザー）
8	保谷駅前	【共催事業】 高齢者対象講座 私だけの人生ノートづくり ※高齢者支援課との共催	1 2 3	9月30日から 10月14日 金曜日 14時から16時 全3回	超高齢社会の「死」の迎え方について、自分と結び付けて考える機会とする。	安岡厚子（NPO法人サポートハウス年輪理事長） 地域包括支援センター職員 在宅支援センター担当者